

## 在留外国人に対する防災対策

### 東京都港区防災課

#### I 港区における外国人対策の必要性

近年、日本の経済力の発展に伴う国際化の進展により、在日外国人が増加している。

そこで、多くの自治体で、また行政の様々な分野で、外国人対策が問題となってきており、防災対策もその中の一つとなっている。ところが、港区の場合は、若干事情が異なる。当区では、幕末以来大使館が多く設置されてきた歴史的背景があるため、従来

から外国人の最も多く居住する地域であった。それも、他自治体では、東南アジア等非英語圏の外国人が多く居住しているのに対し、当区は、欧米系の人々の占める割合が多い。

そのうえ、区内在住外国人の居住者数はほぼ横ばいであるのに対し、日本人住民は、戦後減少の一途をたどっているため、総人口に占める外国人の割合は増加している。

平成5年5月1日現在、外国人登録者は、

表1 外国人登録国籍別人数（平成4年9月末現在）

東京都港区

国 籍 別	人数	国 籍 別	人数	国 籍 別	人数
アフガニスタン	2	ハンガリー	16	ポーランド	29
アルゼンティン	15	アイスランド	1	ポルトガル	13
オーストラリア	361	インド	179	ルーマニア	1
オーストリア	17	インドネシア	41	ロシア連邦	27
バハマ	1	イラン	82	サウディ・アラビア	11
バングラデシュ	55	イラク	7	セネガル	1
ベルギー	26	アイルランド	33	シンガポール	84
ボリヴィア	1	イスラエル	40	ソマリア	1
ブラジル	93	イタリア	96	南アフリカ	4
ブルネイ	2	ジャマイカ	8	スペイン	43
ブルガリア	1	ジョルダン	1	スリ・ランカ	31
カンボディア	20	ケニア	1	スウェーデン	81
カナダ	263	韓国又は朝鮮	2,304	スイス	130
チリ	6	ラオス	4	シリア	1
中国	1,284	レバノン	14	タンザニア	7
コロンビア	8	ルクセンブルグ	2	タイ	96
キューバ	1	マレーシア	70	トルコ	8
サイプラス	1	マルタ	1	ミャンマー連邦	10
チェッコ・スロヴァキア	3	モーリシャス	1	英国	1,067
デンマーク	24	メキシコ	28	米国	3,603
ドミニカ共和国	6	モロッコ	1	ヴェネズエラ	8
エクアドル	1	ネパール	13	ヴェトナム	5
エジプト	11	オランダ	50	ユーゴスラヴィア	10
エル・サルヴァドル	1	ニュー・ジーランド	80	ジンバブエ	2
フィジー	1	ナイジェリア	2	無国籍	13
フィンランド	19	ノールウエー	9	ソヴィエト連邦	88
フランス	375	パキスタン	102	エストニア	1
ドイツ	247	パナマ	1	その他	1
ガーナ	3	パラグアイ	1		
ギリシャ	8	ペルー	15		
ガイアナ	1	フィリピン	781		
				総 計	12,217
				男	6,310
				女	5,907

表2 平成3、4年度港区の特別区民税に係る外国人と日本人との負担割合（当初課税分）

区 分	年度	調定額(千円)	A / C	納税義務者数	A / C	納税義務者1人当たりの負担額
外国人 (A)	3	4,371,547	9.7 %	3,618 (人)	3.96%	1,208 (千円)
	4	4,259,411	9.7 %	3,594	3.99%	1,185
日本人 (B)	3	40,882,022	90.3 %	87,682	96.04%	466
	4	39,619,133	90.3 %	86,440	96.01%	458
合計 (C)	3	45,253,569		91,300		496
	4	43,878,544		90,034		487

11,996人、日本人は152,107人で、外国人が約7.3%にのぼる。

また、特別区民税に関しても、外国人住民の税額は、同税総額の約9.7%に上っている(表2)。

従って、当区では、外国人に対する防災対策は、災害弱者対策としての意義の外に、納税者に対する住民サービスの意義も強い。

## II 国際化が叫ばれる前からの施策

### 1 広報

外国人対策の必要性及び問題点の大部分は、言葉のハンディキャップにある。情報・意思伝達の困難さである。

そこで、防災情報を外国人に提供する広報の分野から、当区の外国人対策は始まった。

#### (1) 防災行政無線による英語広報

昭和57年4月に、防災行政無線放送を開始するに当たり、日本語を理解できない外国人の苦情や問い合わせを回避するために、日本語放送と同じ内容を、カセットテープに録音して放送することにした。

録音内容は、警戒宣言、震度5以上の地震

発生時のお知らせや発災後の対応法である。

#### (2) 総合防災訓練への参加呼びかけ

当区では、毎年9月1日に、支所管内毎の計5カ所で総合防災訓練を実施している。

この内、外国人居住者の最も多い麻布地区で、昭和58年から外国人にも参加を呼びかけることにし、英文チラシを作成して、会場周辺の外国人が多く居住するマンション約400戸に、防災課職員が戸別配付している。

その結果、毎年十数人及至数十人の外国人参加者を得ている。平成4年度は、33名が参加した。この時期は、夏休み中で、帰国中の人が多いために、参加者数の急増は難しい。また9昭和61年に、広報課が発行を開始した英字広報紙「MINATOMONTHLY」を利用して、毎年8月25日号で、訓練の案内と防災知識の普及を図っている。

#### (3) 防災パンフレットの作成・配布

外国人に積極的に防災知識を普及するため、昭和57年9月、日英語のパンフレットを作成配布した(B5版32頁で1万部)。地震の無い国から来ている人向けに、地震発生の仕組みを解説する等文化的背景の差を考慮した。

昭和62年にはこれを全面改訂し、英文32頁で、内容も①日頃の備え②警戒宣告発令時③発災後の3つの場合の、住民と区の役割分担を明確化することに力点を置いて編集した。

当初1万部作成し、区内にある55の大公使館に送付したところ、数力国の大使館からは千部単位での申込があり、追加配布した。

#### (4) 広域避難場所の周知

地震の無い国から来た人にとっては、地面が揺れることは恐怖である。また、堅固な石造りや逆に日干しレンガ造りの建物の国の人には、地震による建物崩壊が最も恐ろしいことで、地震即避難の概念を持つ人が多い。従って、外国人からの問い合わせは、避難場所に関してが最も多かった。

そこで、地震即避難ではないことの周知を図る一方で、彼らの間に答えるために、広域避難場所所在地の周知を強化した。

港区には12カ所の広域避難場所があり、区内57カ所に案内標示板が設置されている。

昭和63年から、その案内板に英文表記の帯板を付設し、また、区内約2,500の街頭設置消火器の格納箱側面に、日英語で当該地区の広域避難場所を表示した。

## 2 訓練

地震体験が希少な外国人には、日本人以上に訓練が重要である。

前述のように、港区では、総合防災訓練に外国人の参加があるが、初期の行政側の外国人対応は、英語の話せる職員を1~2名通



写真1 消火器の体験研修



写真2 三角巾による応急処置の研修

訳として配置する程度であった。

昭和62年、東京都と都心3区との合同総合防災訓練で、麻布会場が外国人対策のテーマを担うことになった時から外国人対策が強化された。

都が一般英字新聞等による大規模な広報や専門の通訳5名の雇用を、区が英語の会場レイアウト板や訓練内容説明板の用意を行い、他区・近県からを合わせて508名の外国人が参加した。以来、区では、毎年同会場に専門の英語通訳と英語の説明板を準備しており、この2~3年は、通訳配置会場を増やしてきている。

区主催の防災訓練の外、大使館や東京アメリカンクラブ等の自主的防災訓練にも、要請を受けて区や消防署が指導助言を行っている。

### Ⅲ国際防災の10年推進事業

国の「国際防災の10年」推進の方針を受け、当区では、平成3年度から災害弱者対策の一環として、外国人への防災対策を強化することになった。

具体的には、次の3つの事業を実施している。

#### 1「防災ボランティア」の育成

ここで言う「防災ボランティア」は、一般的に使われているそれとは意味が異なる。

当区に居住する外国人は、2～3年で帰国する等異動が激しく、地域住民との交流が少ない。

そこで、彼らが地域防災住民組織に加入して、日本人と一緒に防災活動を行う事を最終目標として、まずは外国人間のネットワーク作りのリーダーとなり、区の防災モニターの役割を担う人という意味である。区の英字広報紙で募集したところ、一般英字紙にも転載されたため、区外からも応募があり、区外の方はオブザーバーとして採った。11カ国26人の登録があったが、帰国等異動があり、現在は9カ国18人が登録している。

平成3年5月に連絡会を持ち、外国人への広報の方法等について助言を受けたり、発災時の避難誘導やライフラインの状態について質問があった。

以来、防災訓練その他外国人向け事業の案内を送付したり、意見を求めているが、活動する人は限られている。

#### 2 防災講演会

防災知識を深めてもらう目的で、平成3年度は、防災ボランティアを対象として、日本赤十字社の東浦洋氏を講師に、18人の参加者で、逐語のEI英語通訳を付けて、防災講演会を開き、好評であった。

平成4年度は、対象を区内在住在勤外国人に拡げ、また日本人との一体化の目的も加味して、日本人と一

# EARTHQUAKE

## Information and Preparation

### 地震に関する情報と備え

(改訂版)

#### CONTENTS

1. An Earthquake (地震) .....	1
● Causation and Frequency (原因・頻度) .....	1
● Earthquakes that Affect the Metropolitan Area (首都圏に影響を及ぼす地震) .....	2
● Magnitude and Seismic Intensity (マグニチュードと震度) .....	3
● Evacuation (地震と避難) .....	5
● Earthquake Damage (地震による被害) .....	7
2. Daily Provision (日頃の備え) .....	9
● By Minato City (港区では) .....	9
● Your Role (あなたは) .....	11
● Articles to Provide for Emergency (家庭に常備しておく品) .....	13
● Things to Take with You-In the Evacuation (非常持ち出し品) .....	14
3. Minato City Disaster Prevention Facilities Map .....	15
4. Warning Declaration (警戒宣言) .....	17
● The Meaning and The Process (警戒宣言の意味と過程) .....	17
● Publicizing the Warning Declaration-In Minato City (警戒宣言の広報) .....	18
● Public Institutions when a Warning is Issued (発令時の公共機関) .....	19
● What You Should Do when a Warning is Announced (あなたのとるべき対応) .....	21
● Emergency Call (緊急電話) .....	22
5. After an Earthquake (地震発生後) .....	23
● Local Government Countermeasures (区の対応) .....	23
● Relief Measures for Residents (住民に対する救済活動) .....	24
● What You Should Do (あなたのとるべき対応) .....	25
● City Services after an Earthquake (地震発生後の都市機能) .....	27
6. Drills (訓練) .....	29
● If You Want to Experience an Earthquake or Hold Drills Independently, You Can Do So at (訓練をしたい場合には) .....	30
7. Major Disaster Prevention Offices (主要防災関連機関) .....	31

緒の講演会とし、同時通訳を付け、28名の参加があった。講師は東大生産技術研究所の阿部勝征氏にお願いした。

### 3 防災研修会

総合防災訓練に参加しにくい外国人のために、訓練や講習の場を設けることにした。

平成3年度は、2月に区役所で防災映画会9 防災講話、消火器・起震車の実地体験を行い13カ国35人が参加した(写真1参照)。

平成4年度は、11月に北区防災センターで体験研修を行ない、6カ国27人が参加した(写真2参照)。

いずれも非常に好評であった。

### 4 防災パンフレットの充実

広報の対象をより拡大するために、平成3年は2種類のパンフレットを作成した。

1つは、英語圏以外の人のために9日、中、

他は、短期滞在者のための基本的防災事項だけを掲載した12頁の日英版である。

また、昭和62年に作成した英語のパンフレットが好評で在庫が無くなるのを機に、英日語版にして、日本人にも同じ情報を伝えるようにし、日本人との一体化を図った。

### IV 外国人への防災対策を進めるには

以上、港区では、在留外国人のために防災対策を種々模索しつつ実施しているが、今後これを進展させるためには9外国語に堪能な職員の養成が必要不可欠である。

それと共に、時間的あるいは経済的に余裕が無くて防災に取り組みにくい外国人に対しても防災対策を進めるためには、外国人の視点に立った防災行政と、それを担う職員の努力・情熱が何よりも肝腎だと考える。



英、ハングルの4カ国語によるパンフレット、